

5.対等な立場

(1) 対等な立場で考える

協働を推進させるためには、様々な主体が対等の立場に立つことが不可欠である。

《解決方法》

【市民・行政共通】

事業を行う前から十分に話し合い、協働で実施した事業を評価し、より良いものとしていくことができる仕組みづくりを検討する。

【市民】課題の本質について、話し合いの場で、誰にでもわかる情報提供ができるようにする。

市民が持つ情報を積極的に行政に提供する。

課題を先駆的、または独自性を持って多元的に捉えて体系化し、提案を行う。

【行政】行政のみが公共を担うという考えを変えて、市民が公共を担うことを理解する。

課題の本質について、最初から結論を設定せずにじっくり話し合う機会を持つ。

積極的に行政が持つ情報を市民に提供する

(2) 適切な事業費

協働を持続可能な形で展開し、市民の持つ専門性を活かしていくために適切な事業費について考えることが不可欠である

《解決方法》

【市民】誰もが納得できる透明かつ明朗健全な会計、情報公開、開示を心がける。

専門性を安売りしないための基準を持ち、専門性の使用については適切な対価を求める。

必要な経費を正しく積算し、分かりやすい形で明示する。

【行政】市民が持つ専門性を認識し、大切にすること。

職員の意識改革を行う。

経費の基準を作るとともに、フルコスト・リカバリーを考え方を理解する。

※フルコスト・リカバリーとは…契約にかかる経費を、直接経費はもとより、事務スタッフの人件費や事務所の家賃、光熱水費などの間接経費を正確にコスト計算したうえで、間接経費も含んだ適切な積算を行い、反映させる考え方。

(3) 協働を評価する仕組み、第三者機関づくり

協働での事業実施時に、あらかじめ当事者間で定めたルールなどが守られなくなった場合に意見や不服を申し立てる場、また、事業の評価を行う場が必要である。

《解決方法》

【市民】行政との問題を話し合える場所の設置に協力し、積極的に参加する。

実施している事業が本当に必要なものをかをふり返るためのガイドラインを作成する。

【行政】協働事業実施に不具合が発生した場合に調整を図る第三者機関の設置を検討する。

市民との話し合いの結果を実現させる仕組みづくりを検討する。

市民活動団体が亀岡で信頼を得られるような評価の仕組みをつくる。

(4) 活動の環境づくり

市民活動団体が行政と対等な立場で活動が行えるようになるための環境づくりが必要である。

《解決方法》

【市民】市民が市民を支える場を自分たちで構築し、積極的に活用する。

市民が市民を支えるための寄付制度等の創設。

【行政】市民が市民を支える場が自立していくための支援を行う。

ふるさと納税制度をはじめとする、寄付金制度や税控除制度の効果的な活用を検討する。

市民と行政が共有するルール

かめおか 協働ルール



亀岡市



亀岡市 生涯学習部 市民協働課 市民活動推進係

〒621-8501 京都府亀岡市安町野々神8

電話:0771-25-5002(直通) FAX:0771-22-6372

MAIL:syougai-gakusyu@city.kameoka.kyoto.jp

お問い合わせは…